

熊本県救護施設協議会



ごあいさつ

野坂の浦荘 副施設長 迫本 文雄

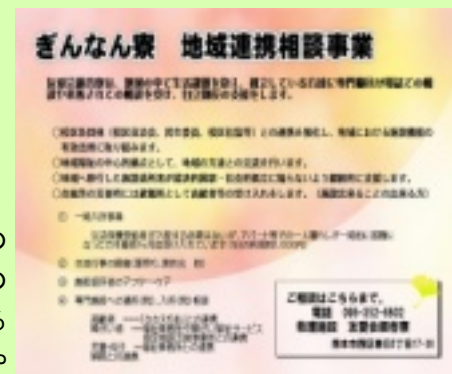
本年1月から、野坂の浦荘の副施設長として頑張っています迫本と申します。
それまでは、入職以来1年9か月に亘り事務長として、経理関係をまとめればいいという気軽な気持ちで施設の役割に携わって来ましたが、今回非常に重い役目を頂き身の引き締まる思いであります。
さて、ここ近年社会福祉法人における内部留保、地域貢献事業、財務諸表の公開等の問題がいわれっていますが、野坂の浦荘におきましては、内部留保に関しては、目的を持った積み立てを行っており、問題となるものはありません。地域貢献事業でも、施設の開設当時から、食の自立支援配食サービス事業として、町の委託により町内の一人世帯への配食サービスを行い、同時に声掛けをして安否確認も実施しているところです。また、独自の事業として、施設に隣接する地域の高齢者単身世帯へ、誕生会等の同じメニューを月に1回無償で提供するなどして、地域への貢献を行っているところです。
財務諸表の公開では、数年前から施設のホームページに掲載し、広く一般に公開しているところです。また、本年度から野坂の浦荘広報誌を作成し、財務諸表等を含めた施設の細かい情報を発信していきたいと計画しております。他にも、本年度は職員によるサービス向上委員会を設置し、入所者に対する言葉づかいを改めることで、虐待の未然防止に繋げ、職員の資質向上を図っていくことも考えております。
このように野坂の浦荘では、新たな事業を展開し、地域住民への理解を深めてもらい、より一層地域貢献の拡充を目指していきたいと考えておりますので、熊救協の皆様の御指導、御協力をよろしくお願いします。

～地域貢献事業への取り組み～ 銀杏寮編

近年、経済雇用情勢の悪化に伴い、生活保護受給者が急増している背景から生活保護受給者や経済的困窮に直面している方々への支援策として、「救護施設の機能強化に向けての指針」全国救護施設協議会が示されました。これらを受け、救護施設が行う地域貢献事業として友愛会銀杏寮は、地域の中で生活課題を抱え、孤立している方達に対し、電話での相談や来寮されての相談を受け、自立助長の支援を行う事や、地域交流、台風等の災害時に地域住民受入れを目的とした、「ぎんなん寮 地域連携相談事業」を平成26年4月に開設しました。
■主な活動内容として
○校区各団体（校区自治会、民生委員、校区社協等）との連携を強化し、地域における施設機能の有効活用に取り組みます。
○地域福祉の中心的拠点として、地域の方達との交流を行います。
○地域へ移行した施設退所者が経済的困窮・社会的孤立に陥らないよう継続的に支援します。
○台風等の災害時には避難所として高齢者等の受け入れをします。

- ① 一時入所事業
- ② 交流行事の開催(夏祭り、演芸会 他)
- ③ 施設退所者のアフター・ケア
- ④ 専門施設への通所(院)、入所(院)相談

■今後の課題について
施設独自の地域貢献の取り組みを始めましたが、様々な課題もみえてきました。今回の取り組みは、利用者にとどまらず、施設退所者や地域の生活保護受給者・生活困窮者への支援を目的としています。昨年より徐々に周知活動を行っていますが、まだまだ定着するに至っていないのが現状です。救護施設単体の事業ではなく、区の各種団体連絡協議会や校区各団体(社会福祉協議会、民生委員協議会)等に趣旨を理解頂き、地域と協力しながらセーフティネットとしての役割を果たしていきたいと考えています。



施設名	施設長名	所在地	定員	開設年月日	電話番号
友愛会銀杏寮	本山 雅徳	熊本市西区春日5丁目17番36号	60	S35. 12. 1	096-352-6602
しらがね寮	前田 洋	球磨郡あさぎり町上西835-2	50	S43. 4. 1	0966-45-6668
天草園	三宅 栄一郎	天草市河浦町宮野河内3662-2	70	S43. 12. 10	0969-78-0053
菊池園	福原 孝明	菊池市泗水町吉富17-1	50	S47. 10. 11	0968-38-2956
野坂の浦荘	永山 恵一	葦北郡芦北町大字田浦町358-2	50	S55. 5. 1	0966-87-2277
真和館	藤本 和彦	阿蘇郡西原村大字鳥子3072	50	H18. 4. 28	096-279-1121
千草寮	片山 辰己	八代市千丁町太牟田2618	50	H21. 4. 1	0965-46-0032

役職員名簿			
役職名	職名	氏名	施設名
会長	施設長	藤本 和彦	真和館
副会長	施設長	永山 恵一	野坂の浦荘
監事	施設長	片山 辰己	千草寮
事務局	事務員	平畑 佳朗	真和館



事業検討委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	福原 孝明	菊池園
副委員長	生活支援員	松中 直人	天草園
委員	介護職員	沼田 彩乃	銀杏寮
〃	介護支援員	石橋 弘士	千草寮
〃	介護支援員	山崎 哲成	野坂の浦荘
〃	指導員	小田 敏宏	しらがね寮
〃	生活支援員	森田 良治	真和館

調査・研究委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	副施設長	三宅 浩徳	天草園
副委員長	指導員	今池 有香	真和館
委員	介護支援員	嶋田美奈子	野坂の浦荘
〃	指導員	森野 貴恵	銀杏寮
〃	介護支援員	日當瀬小百合	千草寮
〃	介護職員	田原 茂	しらがね寮
〃	生活支援員	中島 里美	菊池園

研修委員会			
役職名	職名	氏名	施設名
委員長	施設長	前田 洋	しらがね寮
副委員長	生活支援員	蒔本 健作	天草園
委員	介護職員	中村 きよみ	銀杏寮
〃	介護支援員	古岡美智恵	菊池園
〃	介護支援員	岩見 祐佳	千草寮
〃	介護支援員	元村瀬里奈	野坂の浦荘
〃	生活支援員	外村 優樹	真和館

新任職員紹介

天草園

橋上 一豊 介護支援員 福嶋 秀信 事務長
下山 憂衣 介護支援員

銀杏寮

松崎江利子 調理員 香山 真弓 指導員
桐原 敦紀 介護職員

菊池園

野坂の浦荘

宮内 公代 介護支援員
濱崎 龍一 介護支援員
鶴川 君子 介護支援員
中村 由実 事務員
宮崎 真由美 調理員

真和館

熊救協 2015 6月号 (No.26) 編集後記

熊救協の調査・研究委員会委員として2年目を迎え、数少ない情報交換の場としても楽しく参加させていただいています。先日の委員会では、雑談のなかで仕事上のストレスとどう向き合っているのかが話題となりました。精神障がい者を多く抱えている救護施設では、独特の考え方をされる方々と深く関わっていかなければならず、悩んでいる職員も少なくないのではないのでしょうか。私の場合は、登山、ジョギング、映画鑑賞、カメラ、バイク等（最近免許を取りました！）で気分転換を図っています。仕事とプライベートを上手に使い分け、人生を楽しみましょう！

＜熊救協調研委員：田原 茂（しらがね寮）＞

編集：熊本県救護施設協議会 事務局：〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地
調査・研究委員会 真和館 TEL (096) 279-1121
発行：熊本県救護施設協議会 FAX (096) 279-1122

事業検討委員会

【平成２６年度事業報告】

昨年５月２２日、熊本市のパークドーム熊本でスポーツ交流会を開催した。正午からの開会式の後、グラウンドゴルフ（１０組：７６名）、ニチレクボール（２１チーム）、輪投げ（６チーム：３２名）のそれぞれのパートに分かれて一斉に競技をスタートした。

当日は、県社会福祉課や県・市福祉事務所の来賓のみなさん、ボランティアとして毎年御協力いただいている県グラウンドゴルフ協会のみなさん、施設関係者等を含め、約２３０名の参加があり、来賓の皆さんには競技にも参加いただき、終始和やかな雰囲気の中で交流を深め、充実感漂う大変有意義な交流会となった。

■事業検討委員会

第１回	平成２６年	５月１６日	H26年度交流会最終打ち合わせ
第２回	平成２６年	１１月 ７日	交流会の総括と次年度事業の検討
第３回	平成２７年	２月２０日	H27年度交流会等の事業実施計画について

【平成２７年度事業計画】

■救護施設交流会 開催日：平成２７年５月２１日(木)

会 場：パークドーム熊本（熊本市東区）

内 容：スポーツ交流(グラウンドゴルフ、ニチレクボール、輪投げ)

■事業検討委員会

第１回	平成２７年	５月１５日	H27年度交流会最終打ち合わせ
第２回	平成２７年	６月２６日	交流会の総括等について
第３回	平成２８年	１月２９日	H28年度交流会等の事業実施計画について

研修委員会

【平成26年度事業報告】

■職員研修会

第1回研修会 平成26年6月19日(木) 場所：救護施設 真和館

内容：職種別によるグループ討議(4グループ)を行った。その後、真和館施設見学を行い、真和館が取り組んでおられる居宅生活訓練事業実施状況に関する説明を受け質疑応答を行った。

第2回研修会 平成26年10月29日(水) 場所：くまもと県民交流館パレア

テーマ：「こころの病気(精神障害)に関する研修会」

統合失調症の理解と処遇のあり方について

- ・行政説明 県健康福祉部長寿社会局 社会福祉課 参事 志水容子様
- ・講話「統合失調症の正しい理解」 講師 精神科医・熊本県精神保健福祉センター次長 矢田部裕介先生
- ・講話「当事者が語る統合失調症」 講師 作家・ピアカウンセラー 森 実恵先生
- ・講話「統合失調症の方の地域支援について」

講師 桜が丘病院総合リハビリテーション部長・精神保健福祉士 原田健一先生

■研修委員会

①平成26年4月17日 しらがね寮 ②平成26年7月24日 野坂の浦荘 ③平成27年1月22日 銀杏寮

【平成27年度事業計画】

環境変革に伴う時代のニーズに応えるため、職員の意識改革並びに職員資質の向上に重点を置き、利用者支援研修を主体的に実施することで、専門職としての資質の向上を図る。

■職員研修会

第1回 平成27年6月18日(木) 熊本市青年会館

午前 講話：「触法障がい者・高齢者の理解と課題」

講師：熊本県地域生活定着支援センター副センター長 大久保 等先生

午後 職種別グループ討議

第2回 平成27年10月22日(木) くまもと森都心プラザ

テーマ 認知症に関する研修会（第6回熊救協・九救協合同研修会）

- ・研修内容 午前・午後とも認知症に関する講話を予定 講師は臨床心理士を予定

■研修委員会

平成27年4月16日(木) 天草園 平成27年7月23日(木) 菊池園 平成28年1月21日(木) 真和館

調査・研究委員会

【平成２６年度事業報告】

■調査・研究委員会

第１回：平成２６年 ４月１１日（金） 千草寮 第２回：平成２６年１０月 ３日（金） 野坂の浦荘

第３回：平成２７年 ２月２７日（金） 銀杏寮

■熊救協広報誌関係

熊救協第２４号（６月発行） 送付先⇒１３６カ所１９５部 熊救協第２５号（１月発行） 送付先⇒１３６カ所１９５部

■熊救協ホームページ関係

平成２６年７月１８日 熊救協運営方針、熊救協役員名簿、各施設概要等の更新

平成２７年３月３１日 熊救協広報誌バックナンバー第２４号、２５号の追加

■利用者アンケート調査関係

- ・平成２５年度に、７年ぶりに３回目の「利用者サービスに関するアンケート調査」を実施。その設問別回答一覧と分析結果を熊救協広報誌第２５号の中で報告。

【平成２７年度事業計画】

■調査・研究委員会

第１回：平成２７年 ４月２４日（金） 菊池園 第２回：平成２７年１０月３０日（金） しらがね寮

第３回：平成２８年 ２月１９日（金） 銀杏寮

■熊救協広報誌関係

熊救協第２６号（６月発行） 熊救協第２７号（１月発行）

■熊救協ホームページ関係

- ・熊救協基本方針、熊救協役員名簿、各施設利用者状況等の更新と広報誌バックナンバー（26・27）の追加

■各施設における「自立支援取り組み状況調査」の実施

平成２７年度 救護施設交流会～パークドーム熊本～

去る５月２１日 木曜日、熊本市東区平山町のパークドームにて、平成２７年度救護施設交流会が開催されました。

県内の７施設から利用者・職員、来賓として熊本県・市の福祉事務所、大会ボランティアとして熊本県グラウンドゴルフ協会の皆さま方合わせて総勢２４５名の方に参加いただき、盛会のうちに開催することが出来ました。これも一重に、参加して頂いた利用者、来賓・ボランティアの皆様方のご協力の賜物であり、改めまして厚くお礼申し上げます。

特に、熊本県グラウンドゴルフ協会の皆さま方には、コースの準備、進行、記録等全てにおいてご協力を頂き、誠にありがとうございました。

本年度も、グラウンドゴルフ、ニチレクボール、輪投げの３競技の交流となりました。パークドームでの大会は、これまでも何度も実施されており、利用者の方々も雰囲気慣れておられ、大会では日頃の練習の成果を十分に発揮され、利用者間の親睦も深まったと思います。

グラウンドゴルフにおいては、１４組６９名の参加があり、優勝スコアは「３９」でした。利用者は一緒にプレーした福祉事務所の職員の方々とも和気あいの雰囲気の中で有意義な時間を過ごして頂いたようです。又、ニチレクボールは、利用者２２チーム、施設長２チームで合計２４チームが、８コート３チームに分かれ熱戦を繰り広げました。各コートで１位になったチームが決勝トーナメントに出場、さらに３試合を勝ち抜いたチームが優勝となるハードな競技でしたが、見応えある決勝戦の結果、優勝は野坂の浦荘Ｃチームが掴み取りました。以前は、グラウンドゴルフに参加される利用者の方が多かったのですが、数年前から、ニチレクボールに参加される方も増えて来ているところです。輪投げについては６チーム３２名が参加し、優勝は天草園でした。ニチレクボールに出て輪投げにも出られるようにしていますが、本年は、輪投げ一本で参加された利用者が多く見受けられました。

ケガされる方や気分が悪くなられた方もおられず、各競技とも熱戦のうちに終了することが出来ました。

このように、県下７救護施設の利用者が一堂に会して行う行事は、この熊救協交流会のみです。各施設高齢化、重度化により、年々参加人数が減少している傾向にありますが、これから先も変わらず主役である利用者の皆様の希望を出来る限り取り入れた内容の交流会にして行きたいと思います。

関係各位の皆様方には、これからも色々な面でお世話になることが多々あるかと思いますが、利用者を中心とした救護施設の活動に深いご理解を頂き、ご指導、ご支援を頂ければ幸いです。

